

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 203	福山市立城南中学校
最終更新日 2025年（令和7年）10月1日		

I 福山市

ミッション フジサン
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- 子ども達の主体性について、教職員のサポートがしっかりと行われている。
- 家庭と連携して個別に指導していることが伝わってきた。
- 生徒自身が考え、決める・選ぶことを大切にしていることがよく分かった。

児童生徒の現状

- 「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。
- 知識、技能の定着に課題がある。
- 学ぶことが面白いと実感している児童生徒は多いが、自ら課題に取り組むことができてはいない。

育成する力
蓄積・勘めざす子ども像
(義務教育修了時の姿)中学校区として
統一した取組等

課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション）
認める態度（人としての思いやり）

- 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒
- 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒

- 学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。
- 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自校

ミッション

- 生徒一人一人の学びを最大限に引き出すために、
・個々の生徒の状況を丁寧にみる
・臨機応変に対応する

学校教育目標

自律～自ら考え、決めて、選ぶ～

現 状

<生徒>

- 87.9%の生徒が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答しており、昨年と数値が変わらず、定着している。
- 「学校生活の中で、自分の考えが認められている。」と回答する生徒の割合は91.0%となり、自らを表現できる環境をつくることができている。
- 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は24.4%となっている。
- 学校図書館を利用したことのない生徒の割合は27.0%となった。

<授業>

- 授業で考えるのは楽しいと肯定的に回答した生徒は71.0%。
- 課題について自分の「ことば」で説明できていると回答した生徒は79.6%。

育成する力
資質・能力めざす
子ども像

課題発見する力（課題をみつける）
対話する力（コミュニケーション）
認める態度（人としての思いやり）

- 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見出し、解決に向けて方法をさぐる。
- 課題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者の考え方を評価したり、深めたりして、互いの考え方を生かし合う。
- 自己の考え方や行動に責任をもつとともに、他者の思いや立場を尊重することで、互いに高め合う。

研究
テーマまなぶ
学力の向上

- 「知識・技能」の定着を図り、自分自身の「ことば」で説明できる力をつける。
 - 生徒の学びの姿から、教師が教えることと、生徒が考えることを選ぶ。
 - あらゆる方法で、生徒一人一人の学びの姿をとらえる。
 - 生徒の「学びたい」を引き出す。

研究
主題・
内容等

めざす授業の姿

- 生徒自ら学び、確かな学力をつける
 - 生徒が自ら課題（問い合わせ）を考え、自分の「ことば」で表現する。
 - 生徒が学び方を決めて、解決に向けた方法をじっくり選ぶ。
 - 自分や周りとの対話をくり返しながら、学びを深め、高め合っている。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	加セス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	1 生徒自ら、知識を習得するための学び方を探求し、課題に気付く力を育成する。	★ 見直し 継続		学校と家庭での学習を繋げる工夫を行い、生徒の知識の定着を図る。また、子どもが自身の「言葉」と「数」で表現する力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自ら選んで家庭学習に取り組めるよう工夫する。 ・授業や特別活動の中で、生徒自身が考え取組むことができるよう教職員が導いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、決めて、選んで授業での課題や家庭学習に取り組むことができていると回答する生徒の割合を90%以上にする。 ※2024年数値なし ・自分が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答する生徒の割合を90%以上にする。 (現状88%) 	<ul style="list-style-type: none"> □各教科で研究シートを作成し計画的な授業改善サイクルが回るようした。 □教科会で、習熟度の異なる生徒が状況、目標に応じて「考える、決めて、選ぶ」ことができる課題、授業とつながる課題、ICTを活用した課題など工夫した取組を検討、共有した。 ・評価指標の数値は79% □生徒総会や行事などで、生徒自身が意見を発信し交流、実行する場を設けた。 ・評価指標の数値は89% 	3	2	<p>引き続き教科研究シートをもとに生徒のつまづきを把握し、授業改善や出題する課題を工夫する。</p> <p>学習習慣定着に向けた取組を学年、教科で意図的に設定する。</p> <p>取組を家庭へも発信する。</p>					
4	2 生徒一人一人の個性を大切にした教育活動を実践する。	継 続		教職員と生徒の対話、生徒と生徒の対話、それぞれを大切にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して個性や考えを表現できるような環境を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で、自分の考えが認められていると回答する生徒の割合を増加させる。 (現状91%) 	<ul style="list-style-type: none"> □授業を軸とした学習班の活性化を重点取組とした。各学級で班長会を適宜開催している。また学期はじめには教員と生徒の面談を行い、対話できる環境を整えた。 ・評価指標の数値は90%。 	3	3	<p>夏季休業中に生徒理解に関する研修を実施した。</p> <p>団長、班長などリーダーを育成しながら安心、安全な集団になるよう支援する。</p> <p>生徒会活動において、自分の個性を表現できる機会を設ける。</p>					

		継 続		・週1回の「学びプロジェクト委員会」で個々の状況を協議し必要な支援を行う。	・新規長欠者の出現率を減少させる。 (現状2.0%)	□週1回の学びプロジェクトで、生徒及び保護者の願いを把握し手立てを共有した。各学年担当と担任が連携し取組を進めた。 ・評価指標の数値は0.5%。	4	4	週1回の学びプロジェクトの中で、「長期的な支援が必要な生徒」と「短期的な支援が必要な生徒」を明確にし、より効果的な支援を行う。				
1	3 生徒自ら、充実した学校生活になる取り組みを考え、実行する力を育成する	見 直 し	健康促進、体力づくり、本を読む習慣の定着など、自分の心と身体の育成について生徒会執行部を中心に行なう。	・生徒と教師が共に委員会などの取組を計画し、実行する。	・各種委員会が計画する活動や取組に協力したり、参加したりしている生徒の割合を90%以上にする。 ※2024年数値なし	□各種委員会の提案、取組に加え、城南杯と題して各種委員会の取組をポイント制にして、各総割り回で高め合える工夫をした。 ・評価指標の数値は83%。	4	3	各種委員会の取組や城南杯における生徒の活動に対して、達成感が得られるよう工夫する。				
4	4 対話を通じて、元気・笑顔で勤務する教職員を育成する。	継 続	主体的に新たにことにチャレンジしている教職員を増やす。	・それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 ・教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。	・「仕事にやりがいを感じる」と回答する職員の割合を増加させる。 (現状93.8%)	□落ち着いて授業に参加できない生徒への指導や、生徒指導上の問題について組織的に取り組み、共有を図った。 ・評価指標の数値は84.8%。	3	2	・引き続き、チームで動くことを徹底し、教職員個々が負担を抱え込まないようする。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。